

学校教育目標 「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「心身ともにたくましい生徒」

校 訓 「自主・責任・規律・親和」 R 8. 3. 9 発行 文責 校長 本多 博

毎年この時期にお伝えしてきました。 「桜染め」の話です。

私が赴任してからの3年間、毎年この時期にお伝えしてきた「桜染め」の話を、今年も皆さんに贈ります。

春を象徴する桜には、「桜染め」という染め物があります。桜と聞くと花びらの色を想像しますが、桜染めで使われるのは、実は花びらではなく木の皮です。桜の花が咲く直前の皮を煮出すと、驚くほど美しい桜色が生まれます。

外側から見る桜の木の皮は、黒っぽく、ごつごつしていて、とても花の色とは結びつきません。しかし、木の内側には、冬の間しっかりと蓄えてきた淡い桜色が存在しています。花が咲き終わった瞬間から次のつぼみをつくり、厳しい寒さの中でも木全体を桜色に染めながら、静かに、確かに、春の準備を続けているのです。

あの一瞬の満開を支えるために、桜は見えないところで、長い時間をかけて力を蓄えています。

幹も、枝も、樹液までもが、あの美しい花の誕生を支えているのです。

春を待つ桜がそうやって準備をしているように、皆さんも今、それぞれの春に向けて、心の内側でたくさんの力を育てているはずですよ。

「次に咲かせる花は、どんな色でしょうか。」

「どんな形でしょうか。」

「どんな想いをのせた花になるのでしょうか。」

春はもうすぐそこまで来ています。

「今、どんな準備をしておくべきか」

「今、何に向き合うべきか」

その答えを一つ一つ探しながら、卒業式・修了式までの残された日々を大切に過ごしてください。

皆さんが春に咲かせる、それぞれの唯一無二の花を、私は心から楽しみにしています。

